

尾子義勇傳

稻垣良助編輯

全

山中鹿之助	荒浪鏡之助	九郎左衛門	高橋渡之助	五月早苗之助	早川點之助	江。虎	愛相木之助	不森之助	重一	始
播州三好城	尾子四郎	東福寺住職	藪中次之助	秋家庵之助	橫道兵庫之助					

特60
120





信州の城主ある

村上左エ門之尉義清は向國々名を得て大名となりて威勢日不衰
 元危るるをば忠臣相本森之助ハ詔を乞ひ謀を進むるに義清も大み其忠義を感ずる此森之助ハ即ち山中鹿之助の父あり



相木森之助ハ武田

方ヤラレタシ

信玄ハ木林之助の勇

武あるを愛と馬

場美濃守を

て謀らわらん

と壮若の花

を出し打落

し七示

馬場ハ其心を

察し速ふ相



木を助をを

う形信玄の人を見

る事また馬場のそ

此氣を察して

一事ニツク九人の及

むをどろ所を

将士の信玄ハ心服

理ありんくの如ふ非

威を四隣ふと





相木森之助の妻更科ハ樂岩寺馬之助が娘めし
 山中鹿之助れ母あるある日信濃の
 國さ〜〜山よ七教人の
 悪徒不出合
 少〜も恐
 る〜氣色
 も無〜友
 彼の
 悪〜

徒を合
 手ふ大
 勇を頭
 退〜



山中
 深く隠れ
 夫森之助
 の遺言を
 守り有り
 一人れ
 男子を
 生ありとれ
 則鹿之助あり

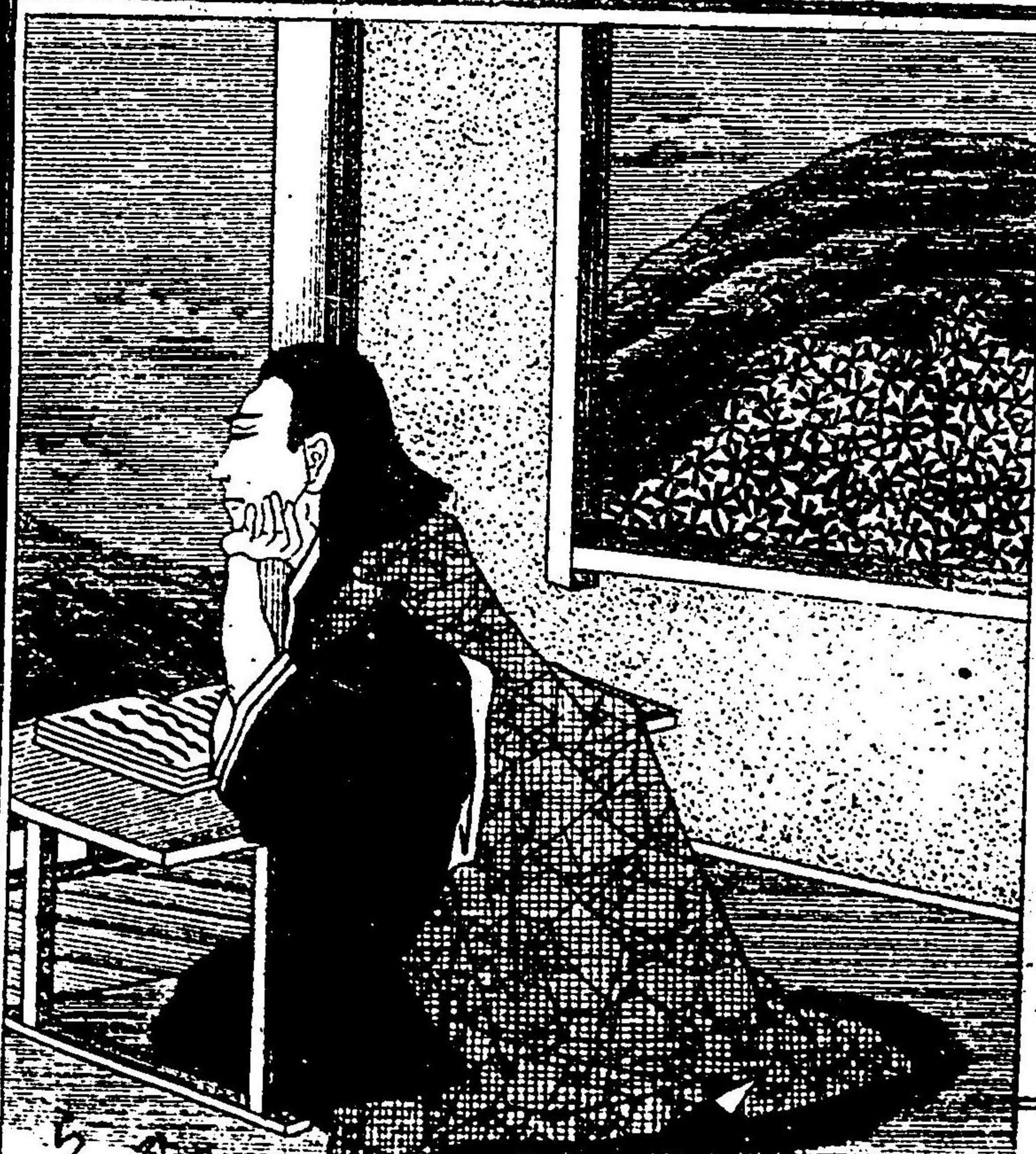


相木森之助の妻更科ハ樂岩寺馬之助の娘めして
 山中鹿之助れ母ある日信濃の
 國さ〜山まて教人の
 悪徒ふ出合〜あ
 少〜も恐
 る氣色
 も無〜反て
 彼の
 悪

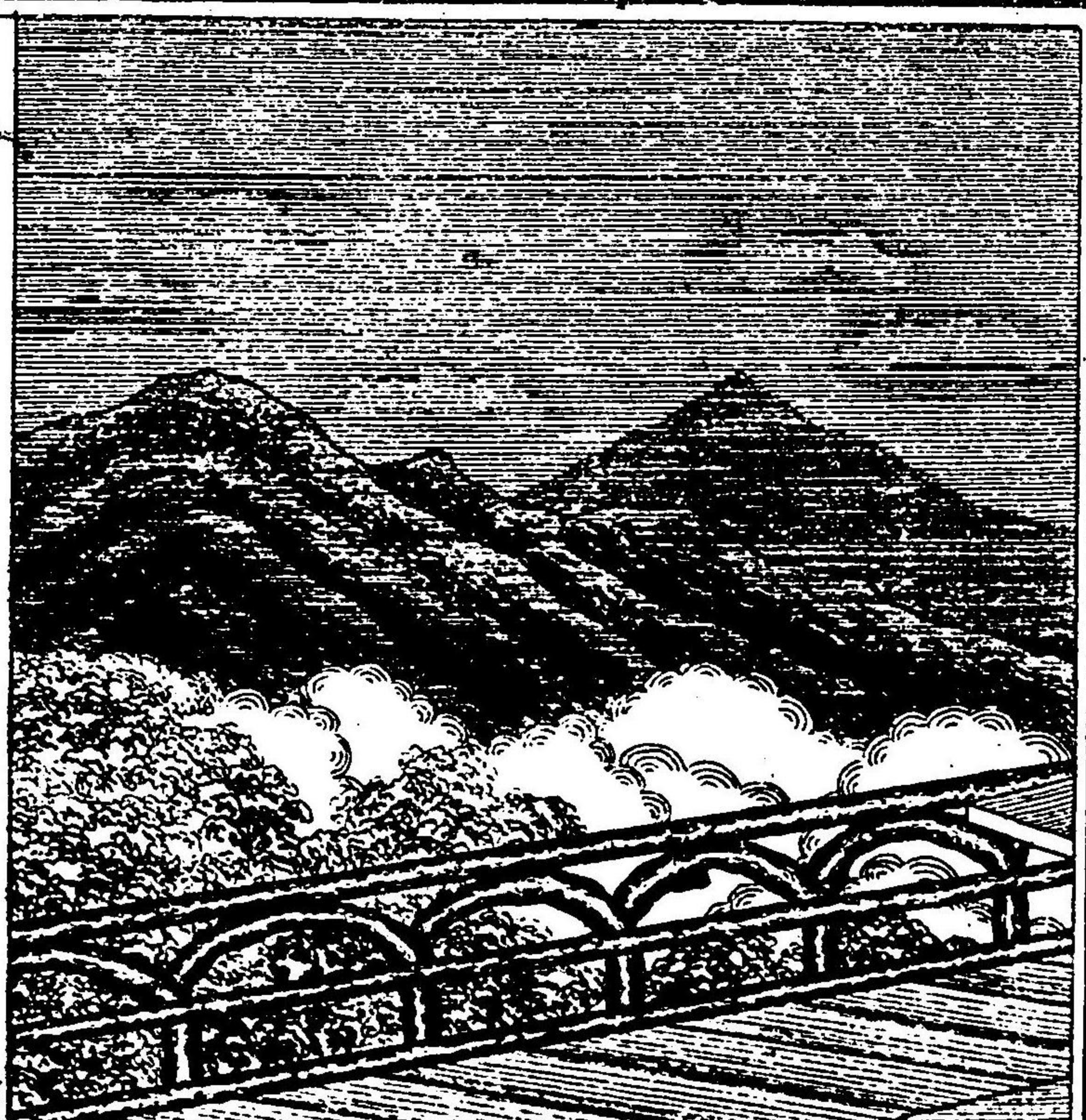
徒を合
 手ふ大
 勇を頭
 追
 退
 け



山中の
 深く隠れ
 夫森之助
 の遺言せ
 守り有り
 一人れ
 男子を
 生ありこれ
 則鹿之助あり



相木森之助
八馬場美濃
守の助を得
虎口をのが
ま是まて
美濃守のが
け武者とな
毎度の合
戦の功跡を
らり後ち深



山林の潜る
らり雲霧の遊で
時節を待たる
か日夜兵學に
眼をゆら
孫吳の奧秘
を記し又
古今の治乱
興亡を詳ふ
才智磨る



更なる深く山中に隠
す徒我子の生長を
樂と友として鹿猿
あんの外は無るる
あつ時山賊
出合

一々バキありと彼の
者をもたらん夫の
馬場信之を討んとぞ
企しむるも夫森
の助ふ出逢ふ



心ちみく
喜事限
あつ其
て夫と共
山居あ

麻子

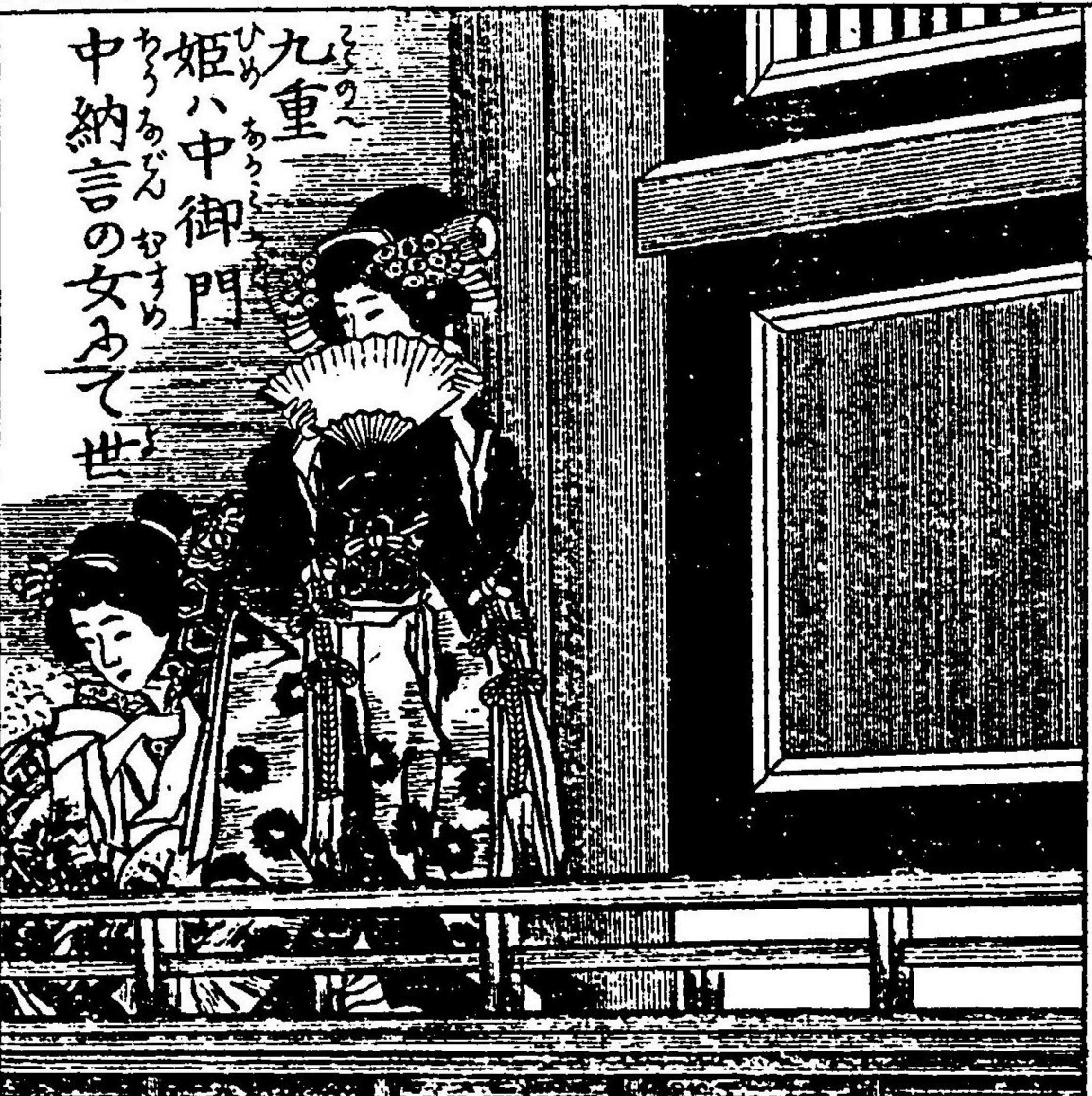
更さら一ひとなハ深ふかく山中やまなかに隠かく
道みち々々徒ただ我われ子この生せい長ちやうを
樂たのみ友ともとてハ鹿か様やまが兎う
あんなの外あつちハ無なるらるら
あつち時とき山さん賊ぞくふ
出合いであい▲



一ひと々々進すすバ辛からみありと彼の
者ものをさうたらひ夫おつちののたき
馬場うまば信のぶ之のを討うんとぞ
企こころ一ひとがさうらふらるらるら夫おつち林はやし
の助すけふ出逢いであい々々はあ
の



心こころちみみく
喜よろこ事ごと限りあ
あゝ其その道みちよ
夫おつちと共ともふ
山居やまあせ
あり



九重
姫ハ中御門
中納言の女めて世

妻とありし
夫の心不違ふ
事もく貞操類ひ
なむたゞ鹿之助も
又深く是を愛し
契とあまらばと
九重姫の如きハ
世の徒み駈子の
容貌を見て心を
動く者と目同く
して語るを

美人の聞えあは
ある時山中鹿之助
幸盛の階下を過
ぐるを堂上より
遙くに望みし
其人がう甲
ぬバ窈ふ情
動きて心を
ちびぎ遂ふ
鹿之助の





ていせい
の貞烈あはれを
志猛けく落

城の
時み及ん
む自ろう
難刀を
携け

天命逃る所無ハ憐あり事せ之
ね働犯るせし
切ゆけ丈
夫み劣ら

九



八重姫ハ

中御門中納言の女
あはれ九重姫の姉あり
尼子義久の妻となりて逆
臣九郎左工門の為み落命
よたて容顔甚美麗



重姫の侍女
 九重
 難苦辛を
 興えん
 共
 重
 九重
 重姫の侍女
 九重
 難苦辛を
 興えん
 共



其興るに及んで
 兵卒数人と戦闘
 皆辟易し始女子
 威み懼る敢て返
 戦んとする者もあらず



一人の
あつた
ある時
しよ大
み出逢
み身

猪を撃ちたる
小猪ハ其儘た
を道たつ世ふ
大力なる
者少
例も無
十二



大谷古猪
之助八尾
子十
勇
士の
一人
あ
ある時山中に入
しよ大ある猪
不出逢し身

拳を以て大
猪を撃ちたる
ふ猪ハ其儘た
を運たて世ふ
大力なる
者少
の
更
例も無
十二



おふまのちりまきんたん
 大江虎丸ハ丹波みあり
 て賊の巨魁あり数人
 を従ぐ近国の豪家み
 押入り化貨財を掠免婦
 女を奪く己の妾やを
 一意不違ふ事あり
 暴つやくを加へ其跡
 叫まを樂し悪逆
 を運しハ大谷古
 猪之助是を聞き



謀を以て彼の
 賊をこころく
 退治せり

尾子

早川鮎の助ハ常ニ
漁業を以て身を營
みしラ 大力の地ニ
あり且実直ニ
ありしモ 仁心深く故ニ
近郷の人々ニ
親み常ニ魚を
採るに 大刀あり
大なる板を以て矢
の如く流る河水を

せ此留道ハ
其獲もの並
この人ハ十倍
せりや後
尼子家ハ仕
えて其名を
頭わ
十勇
士の
一人
人た



尾子

十三



名のついで
文武の達人
人あつて
尾子家
つぐえ



兵庫街道

横道兵庫
之助九州の
浪人あつて
の為兵庫街道
切害し

忠義の志
浅くは豪傑
名を得し
士あり
即ち
十勇士の
人あり



あふ
松く
横道
兵庫之
助とぞ
名の
文武の達
人あつた
尼子家
つとえ



兵庫街道

横道兵庫
の助は九州の
浪人あつた
遊女浮船
の為る兵庫街道
あつた
武士一人を
切害
後尼子氏の
家臣
忠義の志
浅くは家傑
の名を得し
士あり
即ち
十勇士の
一人あり



五月早苗之介、播州農
 家の子あり、後十勇士の一人
 たゞ幼稚ある時より、力量人ふ
 勝てたる田うえの頃、大雨
 ありつた地、用水ふ巨
 石落入て是が為ふ
 水を支へなむ、早
 苗の介、僅十三才あり、
 其石を取のけり、



不
 思
 儀
 の
 大
 力
 あり



秋家庵之助ハ文武二
 道の達人ゆして其
 名も近鄰ハ畏きまろ
 故有る普化僧や
 なる諸国を徘徊
 するや高橋
 渡之助ハ途上
 行合互ハ其の
 人々の凡ハあまざる
 見言をわらし



共ハ志を談ド
 後の契約を
 了りすけ此
 渡の助ハ即ち
 十助の
 人ハ英
 雄あり



數中茨之助ハ泉
州の農民某の倅
此是又十勇士
の一人あり十六
時村の古
寺に山猫住居



夜獨ゆきそ之を窺ひ
かきこめて死して有る
害を

忽ち退
治るたり

山猫ハ
茨之助
を目掛け

厄子



數中茨之助ハ泉
州の農民某の倅
之是も又十勇士
の一人あり十六戈
あり時村の古
寺に山猫住居



加害を
害を
夜獨ゆきそ之を窺ひ

山猫ハ
茨之助
を目
飛
ハ勿念ち返
治

厄子

十

尼子



九郎左工門ハ逆意を逞
 ふして尼子の家たご
 領地をも押領
 しく威勢
 甚盛あり
 子家の
 の忠
 士山中
 鹿之助の為



終に討ちまじりたる又
 寺本生子之助も
 同く尼子家累
 代の忠臣
 彼の逆臣
 小組
 山中等と
 志を合
 専ら

尾 井

九郎左工門ハ逆意を逞

ふりて尼子の家をせし

領地をも押領

しく威勢

甚盛あり

が尼

子家

の忠

士山中

鹿之助の為よ



終に討込まじしたる又

寺本生子之助も

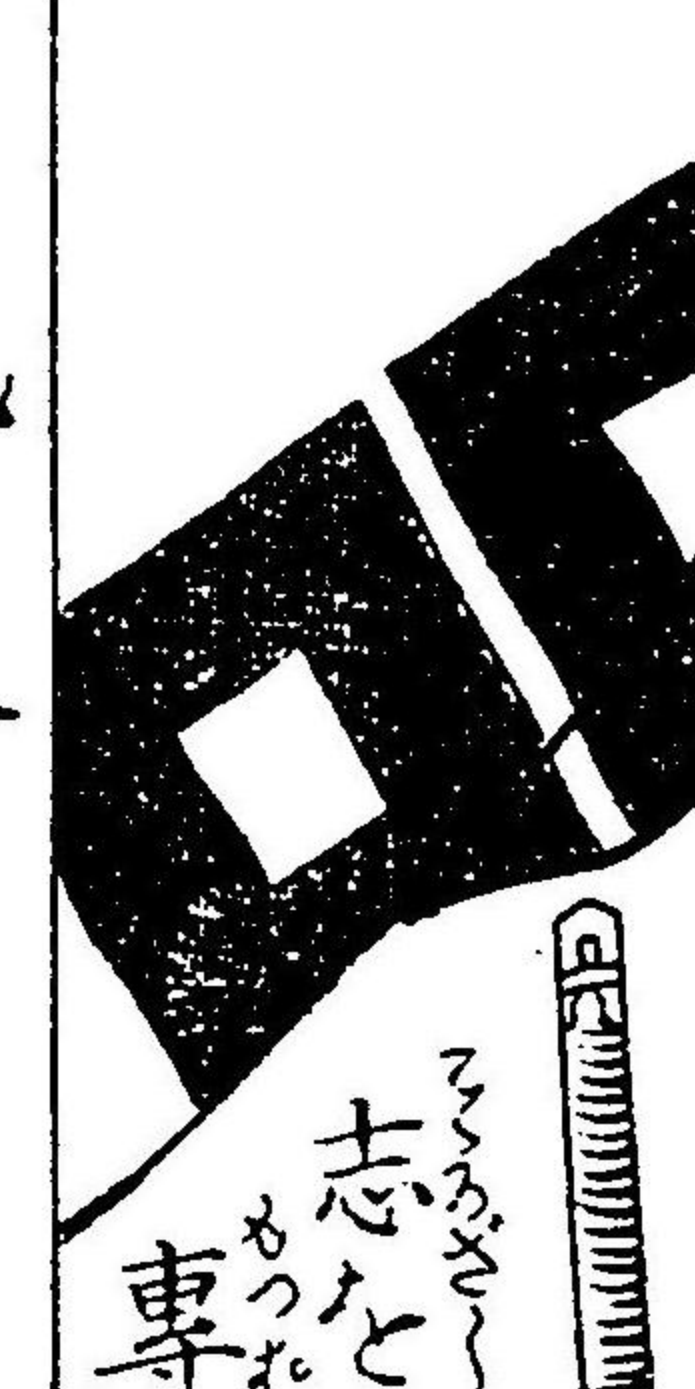
同く尼子家累

代の忠臣

彼の逆臣を

小組をばして

山中等と

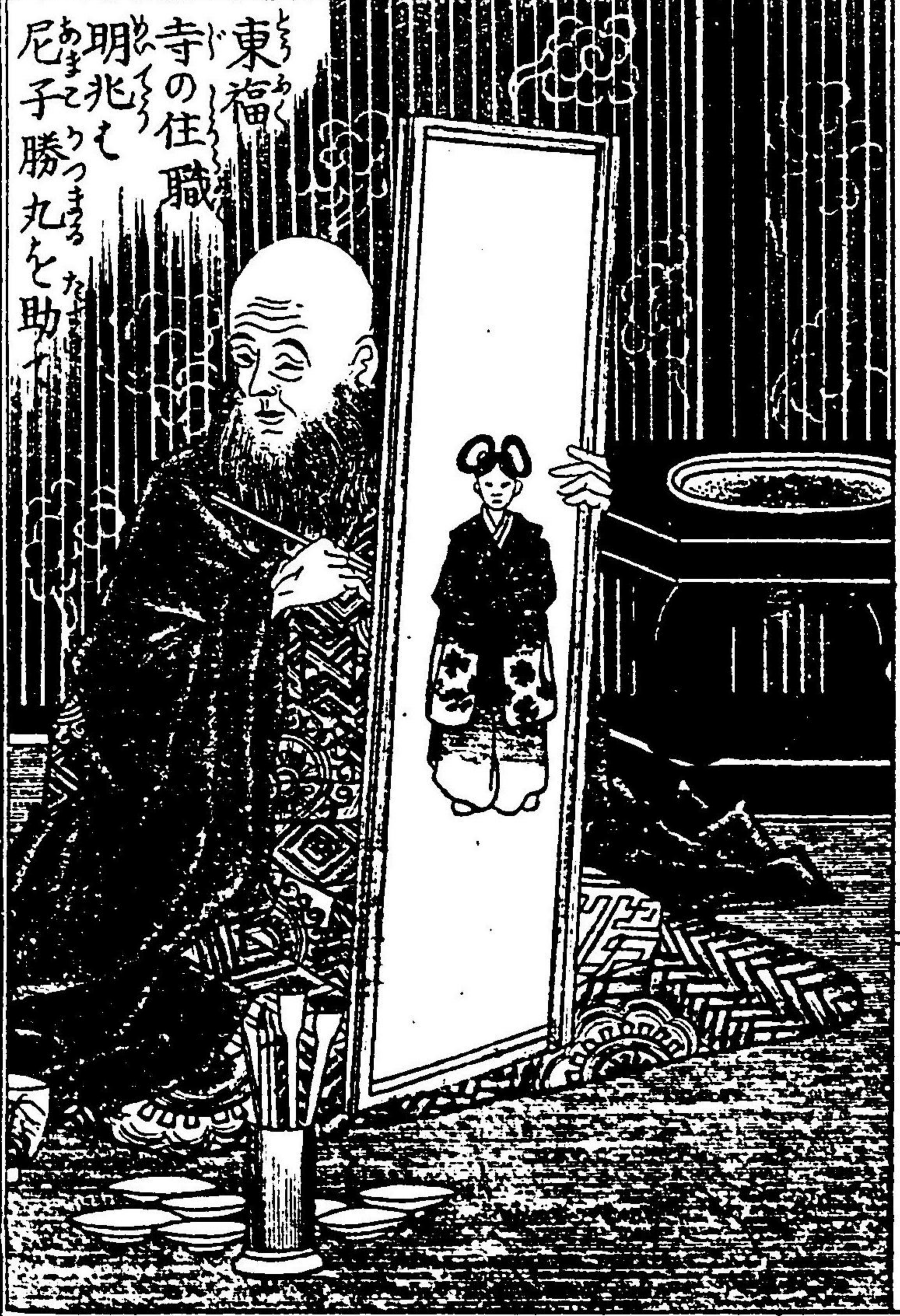


志を合せ

専ら

九郎左工門を亡

せんやうとありしなり



東福寺の住職
明兆も
尼子勝丸を助けた

雲州のつとむる夫と
都ふ上り將軍家の
いとこ白縫姫の知耳
やあり再び尼子の
家を興さんや企
く此時勝丸未細
稚みと明兆のも
ああや夜はともす
學問をま書ひ
も山野をうけ廻
徒兵馬の道ふの志





東福寺の住職
明兆も
尾子勝丸を助て

雲州あいつらしう夫より
都ふ上り將軍家の
いとくと白縫姫の知耳
やを再び尾子の
家を興えんや企て
々々此時勝丸ハ未初
稚やそ明兆の
ああや夜ハもす
學問をる書ハひめ
も山野をうけ廻
徒兵馬の道ふの志





荒浪碇之助ハ大船のせん頭ホ
 て大力無双此者ありて何る時
 尼子主従を舟に乗せし
 海上小碇を上々んとあせ
 いとも上らざりし一人あり
 引あげられハ聞し
 劣らぬ大力たるを
 主従ともみ感し
 是をニ子の
 臣となす後



十勇士の



四ノ子
勝郎

幻名を

勝丸とぞ申する將軍足利

の尊とあり再び尼子氏の

を興さん事を欲し諸方

散在せる舊臣とぞ

まね死集る大み兵を

挙げんと先陣拂をぞ





尼子
四郎

勝久ハ

幼名ト

勝丸トぞ申々る將軍足利家

の御とあり再び尼子氏の家

を興さへ事を欲し諸方

散在せざる舊臣トも

よね死集え大兵を

挙げんと先陣拂をぞ



一

一

山中鹿之助ハ将軍家ニ依頼シ逆臣九郎老工門を討亡んとて



軍勢を従ぐ雲州へ赴地山上よる彼の陣を遙望ミ見て謀を帷幄の中み廻し又大小士卒を励し其粉骨粹身云々もあゝ実不例もあゝぬ忠臣までた道有て感ぜ



者あ頓て彼の陣守り寄んとてさうも峻険山阪を飛禽のどし押下るハ人の業とも見

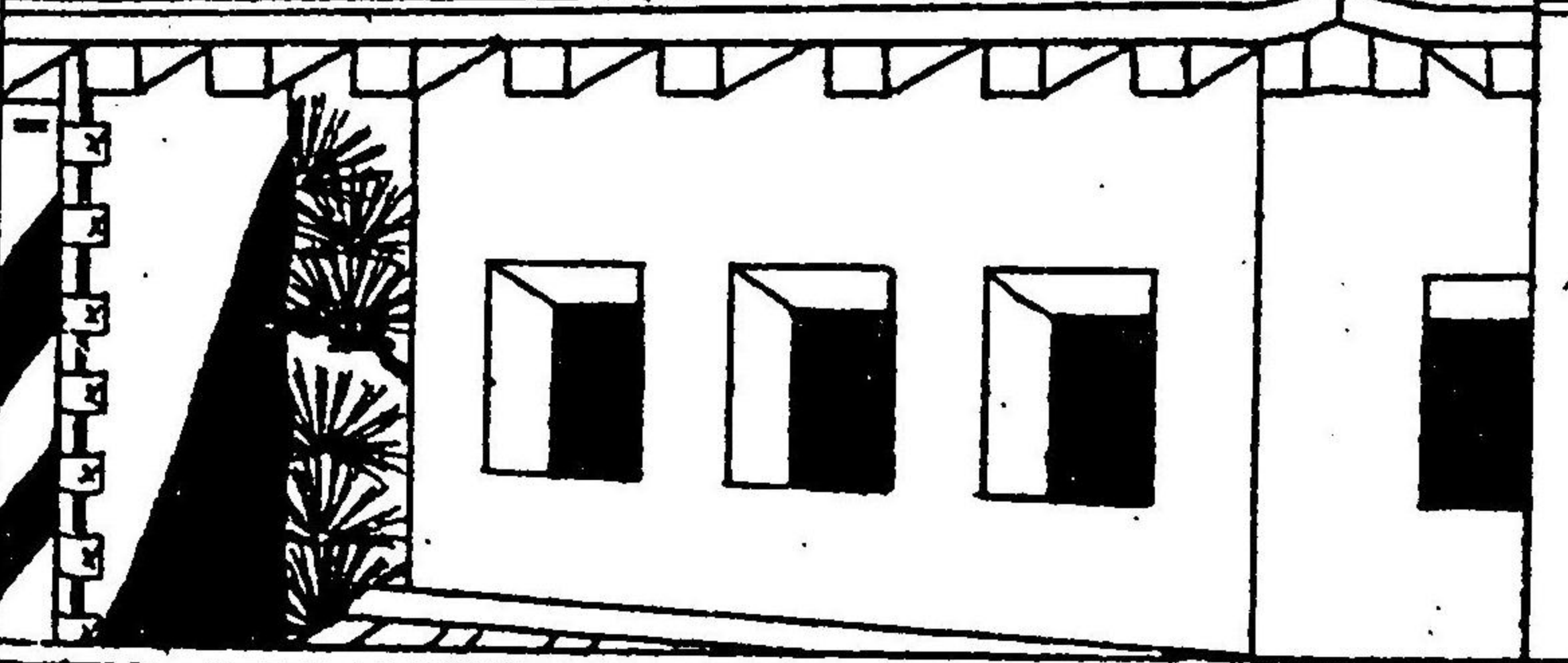


山中鹿野之助八将軍家お依頼し逆臣九郎老工門を討亡んとて

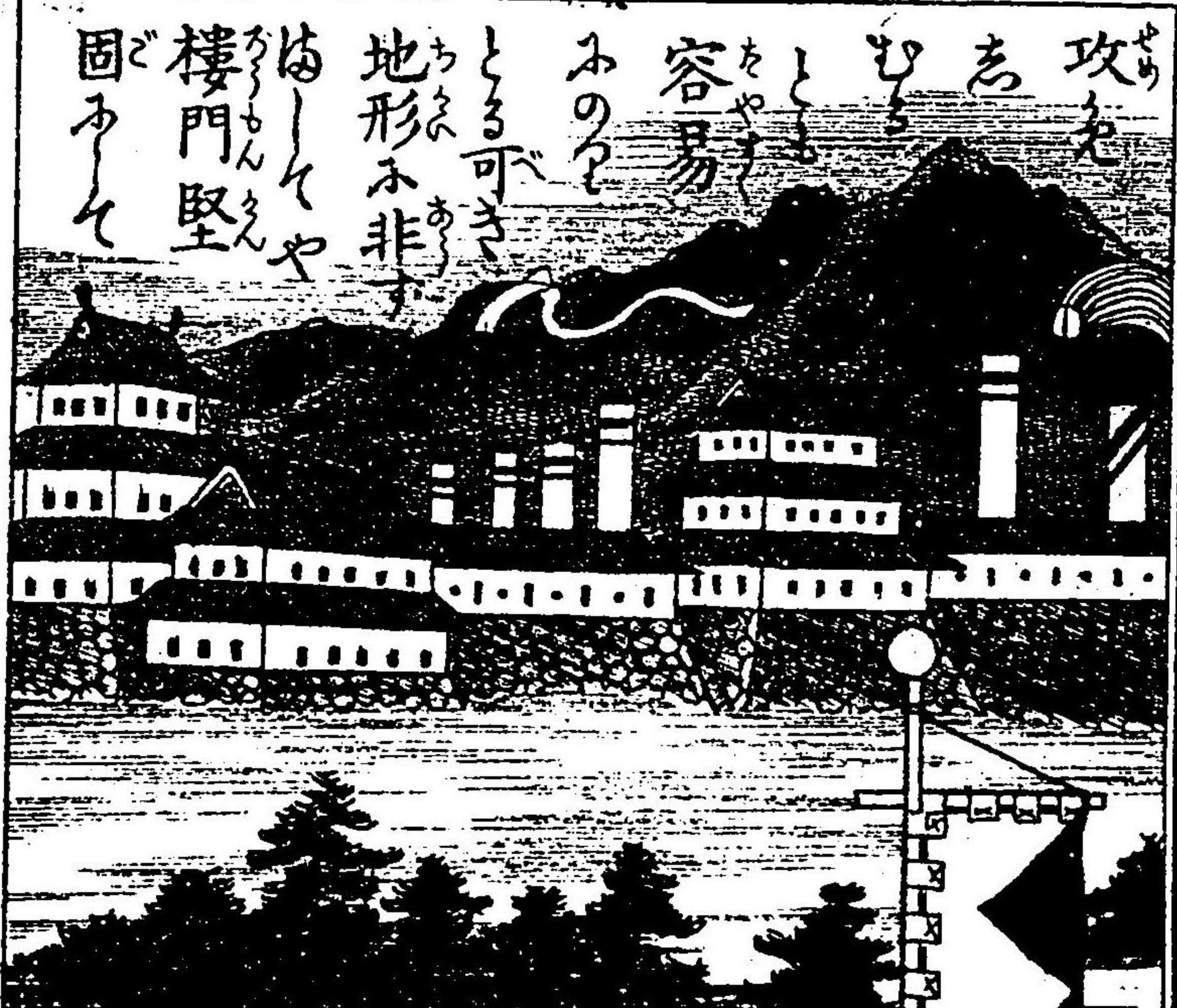
軍勢を従ぐ雲州へ赴地山上よを彼の陣を遙ま望と見て謀を帷幄の中み廻し又大に士卒を励し其粉骨粹身云々もあゝ実不例もあゝぬ忠臣までたゞ有て感ぜ



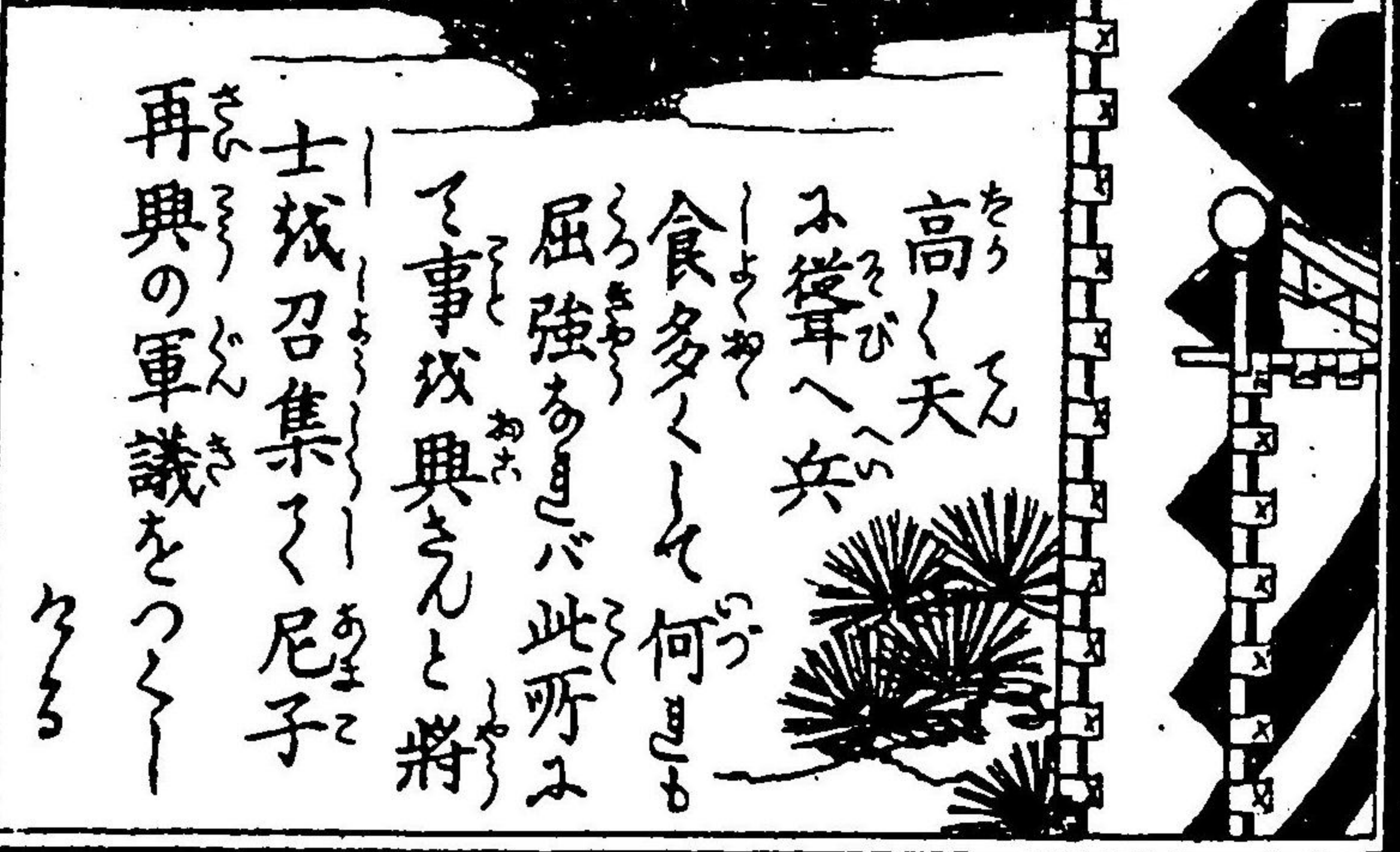
者あ頓て彼の陣へ寄んとてさうも険險山阪を飛禽のどく不押下るハ人の業とも見へ



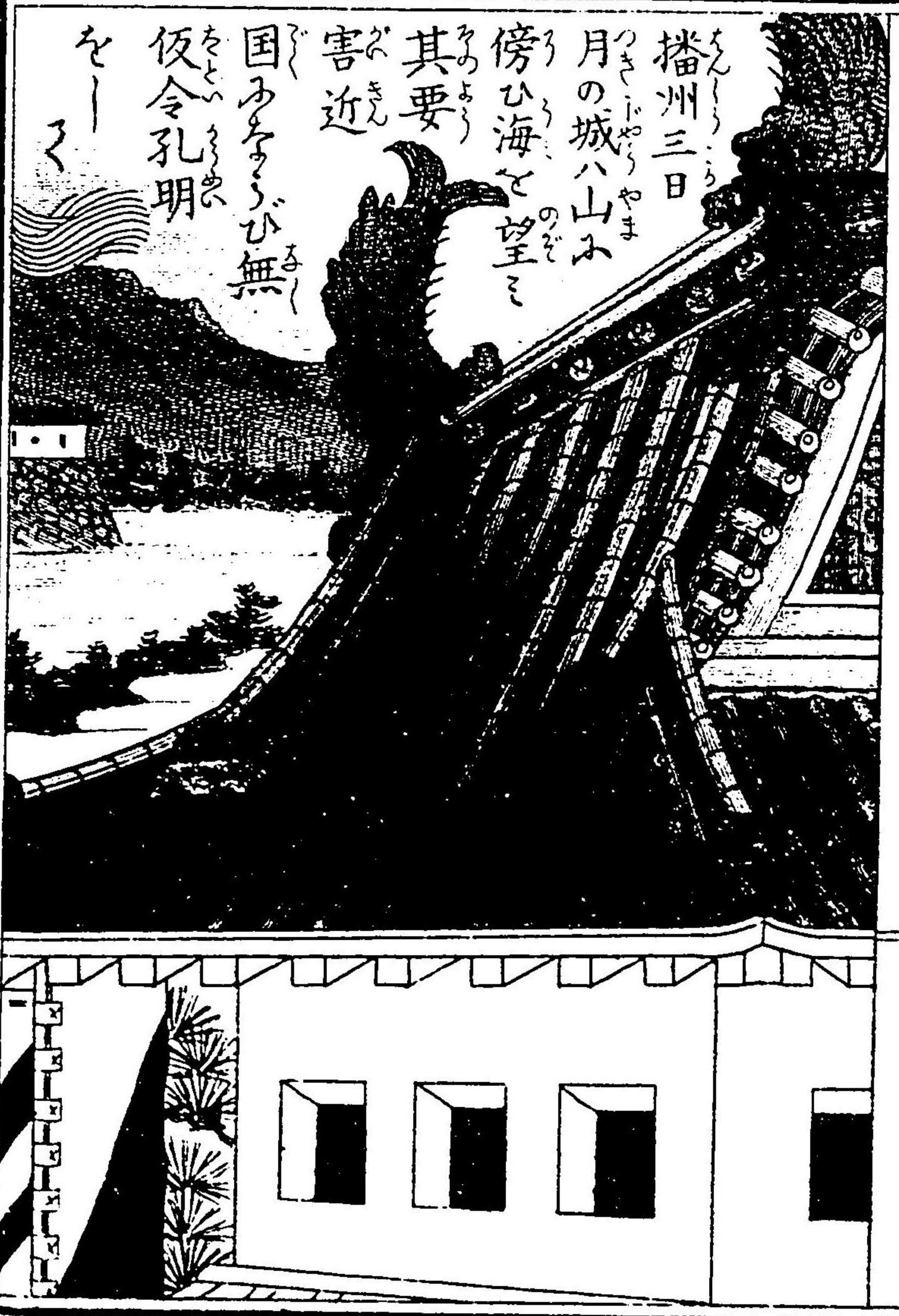
播州三日
月の城八山ふ
傍ひ海を望こ
其要
害近
国少をふひ無
飯令孔明
を



攻を
志
む
容易
みのを
とる可き
地形不非
はしや
樓門堅
固しや



高く天
不従耳へ兵
食多くしや何
屈強ありバ此所
て事以興さんと將
士城召集る尼子
再興の軍議をつく



播州三日
月の城八山み
傍ひ海を望み
其要
害近
国あをうらひ無
仮令孔明
を



攻免
志
む
容易
みのを
とる可き
地形非ず
はしや
樓門堅
固

高く天
み後耳へ兵
食多くして何
屈強あまバ此所
て事次興きんと將
士次召集る尼子
再興の軍議をつくり

明治十八年三月廿四日御届

定價二拾錢

地本問屋

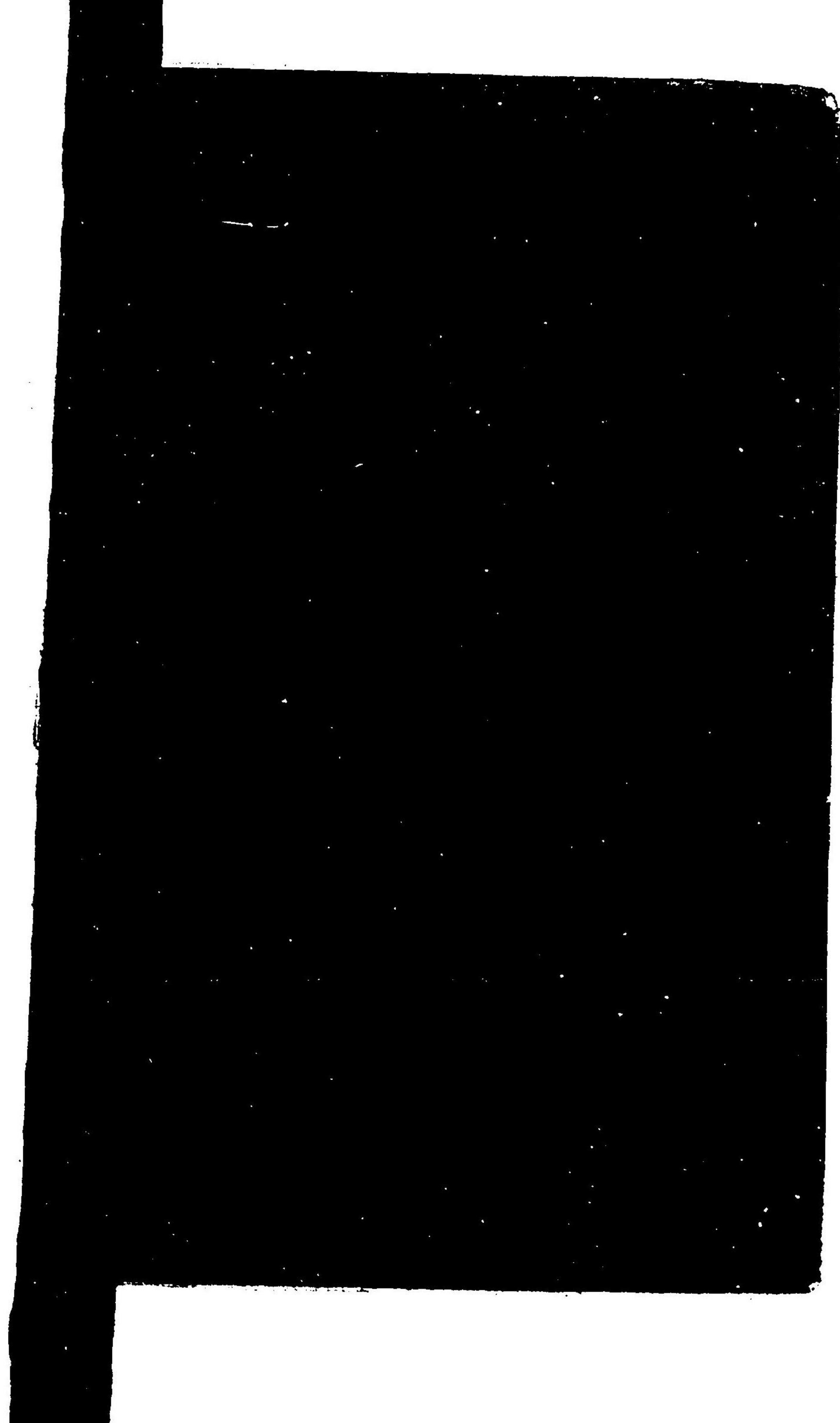
編輯兼
出版人

稻垣良助

日本橋區米沢町三丁目壹番地

發兌

金幸堂



特60
120

091921-000-5

特60-120

尼子義勇伝

稻垣 良助/編

M18

DBP-0030

